

知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム構想（案）

1. 事業の意義

未来を切り開いて行くことのできる人材の育成が社会的に求められている。さまざまな分野で国、社会の発展に主体的に取り組むことに志しを持つ若者を育成するため、ネット上で有識者の知見や助言を参考に解がない課題を対象に討論型学習を行い、その成果を社会に発信してイノベーションに関与できる能力の育成を支援します。

2. 事業の概要

分野を横断した総合的な学習を通じて、複合的な視点で最適な「解」を見出し、新機軸による新たな価値の創造を通じて、社会や世界の発展に関与する能力の向上を目指します。教育クラウドを形成し、学習希望者を課題別に公募・選定して、コーディネータ、知識提供者、ファシリテータの支援の下で、eラーニング、グループによる討論学習と学習成果を社会に発信し、省察を行い、優れた学習成果を公表し、社会に提言・提案を行います。

3. 事業のイメージ

① 支援の対象

未知の時代に立ち向かう意欲のある高校生、大学生、社会人(30才未満)とし、課題別に公募して学習者を選定します。

② 課題の設定

高い見識を持つアドバイザーで構成します企画委員会にて課題を設定します。多くの人が関心と興味を持ち、自然科学、社会科学、人文科学にまたがり、今後の日本又は世界を考える課題とします。

例えば、「安全・安心な社会」の観点から、地球規模の安全、国の安全、経済・社会の安全、個人生活の安全など、安全を脅かすリスク要因から選定します。

犯罪・テロ、事故、災害、サイバー空間の問題、健康問題、食品問題、社会生活上の問題、経済問題、政治・行政問題、環境・エネルギー問題など様々なテーマが考えられます。比較的身近なテーマとして、例えば「食の安全・安心」などが考えられます。

③ 学習の進め方

以下に、学習イメージの一例を紹介します。

- * コーディネータより、「安全・安心な社会」のイメージを明らかにし、学習の内容・方法、予備知識習得のための文献・情報を紹介します。
- * テーマに対する学習範囲を整理するため、コーディネータ、専門家等によるフォーラムをネット上で配信し、問題の所在・背景を確認させるとともに、研究機関、学識者のサイトを紹介して、課題認識を行います。
- * テーマに応じてグループを構成し、PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)を教育クラウド上で行います。
- * 技術的・制度的・人間的課題を抽出し、知識提供者からの意見を踏まえてフォーラム形式による討論を重ねる中で新機軸を探求し、学習成果を社会に発信して意見・反応を伺い、振り返りを行い発展的に学習を展開します。

④ 学習成果の公表

- * グループによる協同学習の成果概要をユーチューブなどのソーシャルネット上で映像等で公表します。
- * 発表内容についてコンテストを行い、優れた発表についてグループに対して政府関係機関、経済界、報道機関による授賞を行います。グループ学習者の氏名及び所属機関等を公表するとともに、一人々が得た学習の成果についても個人の了解の下で学習ポートフォリオとして公表します。
- * 詳細な発表内容をレジュメとして日本語又は英語で作成し、ネット上で実費でダウンロードできるようにします。なお、大学、政府機関、経済団体、関連団体には冊子体で配布します。
- * 教育クラウドでの意見交流内容の保護、発表コンテンツの著作権保護を行います。

⑤ 支援の体制

協力者には、本事業に関わることの社会的なステータスが得られるように、文部科学省、経済産業省、厚生労働省などからの後援を取り付けるとともに、社会に事業の重要性を理解いただくため、NHK にニュース及び特集番組の協力を依頼します。

以下に、協力者の役割・対象などのイメージを紹介します。今後、事業化する段階で具体的に検討します。

- * 総合アドバイザー
サイバー・コンソーシアムの運営、コーディネータ・知識提供者の選定、課題の選定など事業全体を企画します。若者世代に未知の時代を生き抜く力を獲得させることに強い使命観を持ち、ボランティアとして参加できる各界の有識者を想定しています。
- * コーディネータ
学習内容の紹介、グループ学習の方法、振り返りによる発展的な学習方法などの支援を知識提供者、ファシリテータと連携して行います。ボランティアとして参加できる大学教員、退職した大学教員を想定しています。
- * 知識提供者(テーマに応じて選定し、依頼します)
知識・情報の提供を担当します。対象者は、大学教員、退職大学教員、社会人、公務員、政治家などを想定しています。
- * ファシリテータ
ネット上で学習指導を担当できる協力者として公募し、選定します。例えば、大学博士課程修了生、退職大学教員、社会人などを想定しています。
- * コーディネータ、知識提供者、ファシリテータに対して若干の謝礼を支払います。

⑥ 学習環境

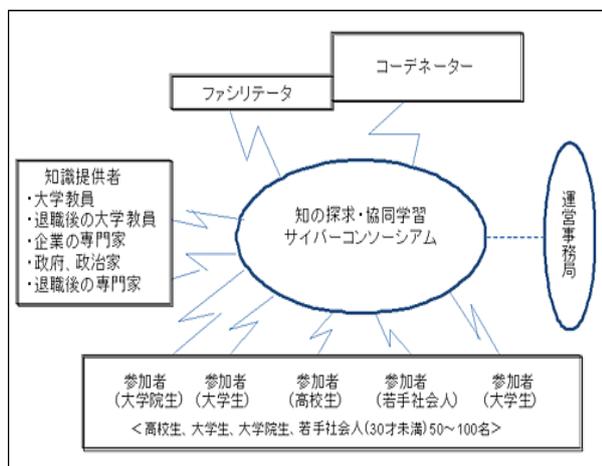
学習の場は、多様なメディアに対応でき、コスト負担が抑えられるクラウドを使用します。そのためにクラウドの運用管理の専従者及び、コーディネータ、ファシリテータ、知識提供者の確保を行うための財源確保が必要となります。

⑦ 事業のビジネスモデルのイメージ

- * 事業に伴う最小限度の費用は、毎年1千万円程度を想定しています。
- * 資金は、学習希望者から1課題につき2万円を限度とし、50人程度(100万円)で9カ月程度の学習期間を想定しています。
- * 本協会の賛助会員に事業の趣旨を理解いただき、1社1口(10万円)程度の増額協力を働きかけるとともに、賛助会員を情報産業以外に拡大して、外部資金(250万円程度)を確保します。
- * アウトカムの詳細情報希望する場合は、ネット上で実費(1課題数千円程度)で配信します。
- * 受講料、賛助会員の増額等で3割、本協会の現行会費の資金で7割を想定しています。

知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアムのイメージ

1. サイバー・コンソーシアムの概念図



2. テーマのイメージ

